

全国に広がる体験活動

福島県会津若松市の阿賀川周辺で7月30、31日、川に学ぶ体験活動全国大会が開かれた。NPO法人や市民団体が5年前に結成した「川に学ぶ体験活動協議会(略称RAC)」と阿賀川・川の達人の会などでつくる「川に学ぶ体験活動全国大会in会津実行委員会」が主催した。今回で5回目の全国大会だ。人と川が共存する文化・社会をめざすという目標に、約350人が全国から集まり、活動報告やイベントなどで交流した。

川と遊び 川に学ぶ

全国大会のメイン開催地は、これまで岡山市、北九州市、徳島市、福井県武生市と西日本が続いた。東日本での開催は今回が初めてだった。

会津若松市のアヒオスペースで7月30日に行った開会セレモニーでは、「河川環境行政」についての基調講演のほか、白虎隊の剣舞のアトラクションがあり、地元色豊かな幕開けとなった。大会を準備してきた「阿賀川・川の達人の会」の高橋利雄事務局長は「阿賀川の自然はここにも負けない。満喫していただきたい」と話した。

この日の午後からは会津若松市と周辺で6つの分科会が持たれた。会津若松市神指町の阿賀川右岸河川敷にある「水辺の楽校」では、「阿賀川・川の達人の会」の案内で川の総合学習の分科会が開かれ、親子連れら約40人が参加した。河川敷に設置

されたテント周辺に集合。「達人の会」の高津弘之さん(52)らスタッフが「最初に阿賀川の水生物の採集、観察をします」と説明。参加者らはテントに用意された玉網やバケツなどを手に深さ約10〜30センチの流れに入った。

「ウワー気持ちいい」と子どもたちの歓声が上がった。ほだしではけがをするからスグ靴のまま、「玉網を上流に向けて沈めておいて、上流の石を動かすんだ」とスタッフが採集のアドバイスをした。

「アツ、お魚だ」と女の子が声を上げた。「ポーン、アブラマの子どもだね」とスタッフ。周囲からも拍手が起きた。

ドジョウ、カゲロウの幼虫、サカマキ貝のゼリイ状の卵……。達人の会が用意した容器に水生生物が放たれた。

福島県会津坂下町の山口孝之さん(42)は小学校3年の長男(8)と同2年の長女(7)と一緒に参加した。娘がカゲロウなどの幼虫をつかまえて大喜びでした。夏休みの親子のふれ合いができましたと話した。

1時間ほどで次のテントに移動。今度は石を川面に投げる「水切り」の体験会があった。地元高校の1年生男子2人が「水切り」のお手本を披露。原理やコツも説明した。石が水面を何回も跳ねると歓声が上がった。それでは、みなさんも挑戦してください。スタッフのかけ声で、参加者は河川敷で平たい石を探した。その石を次々と投げて、楽しんだ。

分科会ではほかに、北会津ホテル及び白山沼イトヨの里訪問 木炭庵炭焼き体験と湯川

浄化実験 阿賀川ボート体験と化石採掘体験 猪苗代湖アサザ栽培による浄化体験活動 子どもと学ぶ水難救助活動訓練 のテーマで開かれた。

31日には全体会で、しずおか流域ネットワーク(静岡県)、芦田川美麗塾(広島県)、白川エロソカルネットワーク(熊本県)などの団体が活動を報告した。イカダ下りのイベントなどがあり、交流を深めた。

川に学ぶ体験活動協議会は00年9月に誕生した。英語表記はRACだ。「みんなでふやそう!川のファン」というスロガンを掲げて活動している。

川で野外活動をするNPO団体や市民団体が河川環境の保全や指導者と川のファンの育成などをめざして集結し、12団体でスタートした。

協議会の事務局長で茨城県取手市でカヌーの活動をしている齋藤隆さん(35)が話す。「川は危険だと川に近づかせないことが多い。川での活動には本来、感動や人間性の回復につながる楽しさ、素晴らしさがあるのだ。」

協議会は、川への近づき方、付き合い方の技術と知識を持った指導者の養成から手がけた。

初級、中級、上級(04年8月以降は、それぞれリーダー、インストラクター、コーディネーターと改称)が修得すべきカリキュラムを定め、RACが指導者として認定する方式にした。例えば、初級は、川に学ぶ体験活動の理念と川の安全対策の基本、中級は保険制度と法律、安全対策の実技、ロープ投げの技術など。コーディネーター(上級)については、現在、カリキュラムの内容を策定中で、RAC認定のコーディネーターはまだ生まれていない。



この川の仲間を通じて協議会の理念と活動は次第に理解され、参加団体が増えた。03年4月に100団体を超え、05年4月には143団体になった。それとともにRAC認定の指導者(初級、中級の合計)の数も増加している。協議会が創立された翌年の01年に52人だったのが、03年には千人を超え、04年には1623人になった。

協議会は、全国で活動する団体の情報を集め「ニュースター(年2回)やメルマガジン(月2回)」を発行しており、講師派遣や機材の貸出し、川での体験活動に伴う保険制度の紹介もしている。

指導者らによる子ども水辺安全講座にも力を入れる。RACなどが開発した子ども用ライフジャケットや子どもの水辺安全講座の教材DVD「なまず大先生とおねえさんのワル河童を探せ!川つて」が危ないの?」を販売している。

同協議会事務局は設立当初から財団法人「河川環境管理財団」子どもの水辺サポートセンター(東京都中央区)内に置かれていたが、この7月に同財団から独立した。斉藤事務局長は「協議会の参加団体が増え、少しずつ活動力がついてきた証拠」と話す。